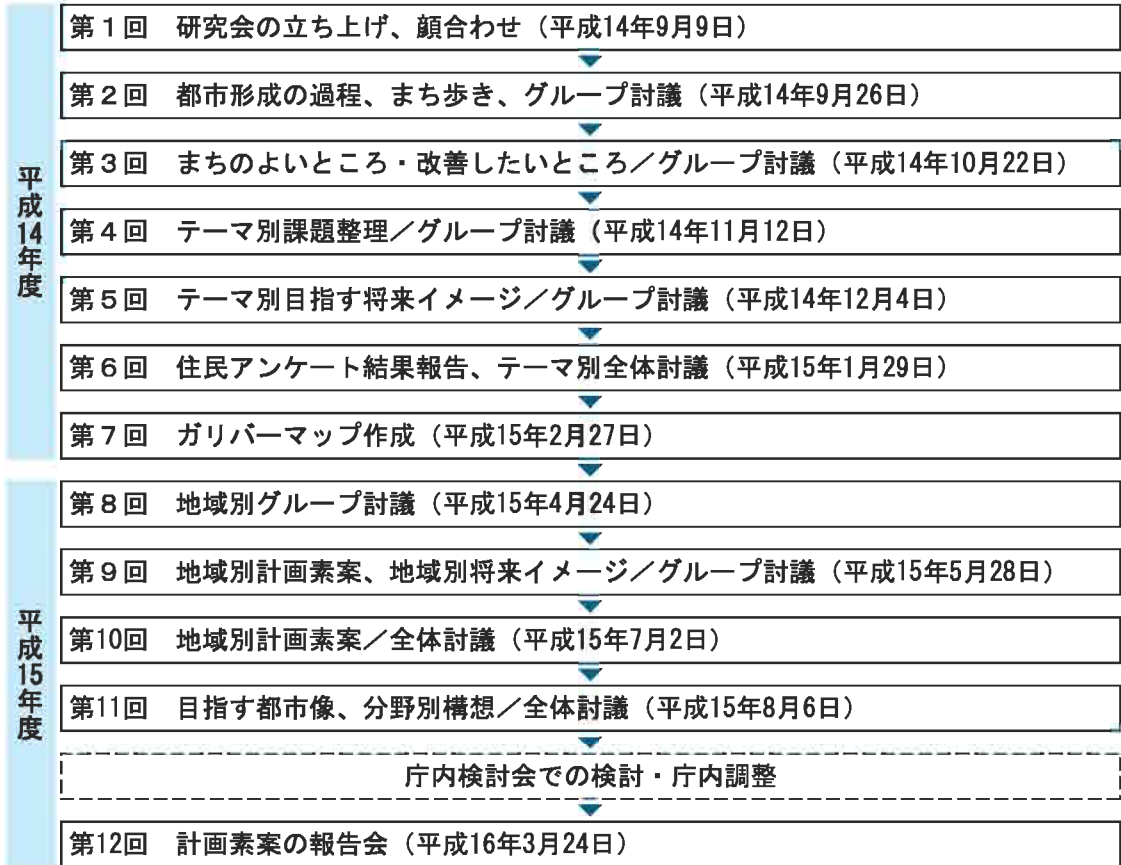


参 考 资 料

1 まちづくり研究会の概要

1-1 まちづくり研究会の活動経緯

(1) まちづくり研究会の活動内容



(2) まちづくり研究会での活動内容の推移

	開催日	委任式	見学会	討議内容			報告会
				全体	テーマ別	地域別	
第1回まちづくり研究会	平成14年9月6日						
第2回まちづくり研究会	平成14年9月26日						
第3回まちづくり研究会	平成14年10月22日						
第4回まちづくり研究会	平成14年11月12日						
第5回まちづくり研究会	平成14年12月4日						
第6回まちづくり研究会	平成15年1月29日						
第7回まちづくり研究会	平成15年2月27日						
第8回まちづくり研究会	平成15年4月24日						
第9回まちづくり研究会	平成15年5月28日						
第10回まちづくり研究会	平成15年7月2日						
第11回まちづくり研究会	平成15年8月6日						
第12回まちづくり研究会	平成16年3月24日						

1-2 テーマごとの検討結果と主要な意見

平成14年度のまちづくり研究会は、第1回で自己紹介、第2回ではまち歩きを行ったのち、全体討議を行った。その討議結果から、「自然（水、緑、風景など）」、「移動と連携（交通、情報、道路など）」、「生活と文化（歴史、伝統、住環境など）」、「子育てと福祉（教育、バリアフリー、病院など）」、「産業（農業、商業、工業、観光など）」の5つのテーマを設定した。第3回から第7回においては、この5つのテーマについて委員各自が興味のあるテーマを選択し、それぞれのグループに分かれて討議を行った。

各グループでまとめた、テーマ別の都留市のイメージとそれを実現するための方針、まちづくりについての意見・提案は次の通りである。

(1) 自然（水、緑、風景・・・）

■自然の面から見た都留市の目指すイメージ

まちのいたるところから美しい山や川の風景が見える

- ・まち全体が公園

■実現するための方針

- 安心して遊べる川の整備（水質の浄化／親水性のある護岸への転換／河川敷の整備／身近な水路の活用）
- 湧水の保全対策（下水道の整備が完了するまでの早急な対策の実施）
- 身近な公園の整備（子供の遊び場の整備／公園用地提供者への優遇措置）
- 公園のネットワーク化（梁山を核とした広域的な公園の形成／公園をつなぐ散策路の整備）
- 住民参加による環境保全活動（河川の清掃活動等に参加することにより住民意識を向上させる／勉強会の開催／住民意向を反映した整備開発の実施）
- 鳥獣害対策（被害を防止し遊休農地を生じさせない）

■まちづくりについての意見・提案

- ・まちなかにベンチがもっと欲しい。学校の工作の時間を利用したり、間伐材の利用等の工夫をすればよい
- ・総合学習の場をつくる必要がある。特に自然（環境）体験の場をつくり、そこに住民も積極的に参加していけばよい
- ・下水道計画区域でも、合併浄化槽に補助金をつけて欲しい。このままでは川の水が汚れ、川が死んでしまう
- ・他都市との水を介した交流をしていけばよい。ボランティアへの参加を募り、一緒にまちをきれいにしてもらおうとよい
- ・山の整備が必要。県有林も多いので県にも要望していくことが必要
- ・エネルギーからの視点が無い。エネルギー研究会の活動とまちづくり研究会と一緒にあった取り組みをしていってはどうか

(2) 移動と連携（交通、情報、道路・・・）

■移動と連携の面から見た都留市の目指すイメージ

人と情報が巡りあう、つなぐ輪、都留

- ・産業、観光、生活者の視点、自分たちでつくる、高齢化社会、歩けるまち、市民＝行政＝民間の連携

■実現するための方針

- 既存のもの（計画があるものを含む）に手を加え活かしていく（バイパス、高速道路、リニア、総合運動公園、公共交通／拠点をつなぐ）
- 交流を促進する新しい道などの整備
- 計画をつくり、効果的に進めるための市民・行政・民間の連携
- 市民自らもつなぐ実践を（道づくり／施設の運営／情報発信／俳句の道）
- 生活者の視点から見た道づくりへの転換（散歩道／ハイキングコース／サイクリングロード／高齢者に配慮した道）

■まちづくりについての意見・提案

- ・地に足のついた考え方で、開発ではなく、現在あるものを活かすのがいい。
- ・都留の情報を発信していく必要がある。
- ・CATVが市内全域に整備されてなく、地域によって情報の格差がある。
- ・現在の防災無線は聞こえない場合があるので、実現性がある共通したネットワークが必要
- ・東海自然歩道はメンテナンスされてなく、崩壊している。これらは利用者が整備していく必要があると思う。

(3) 生活と文化（歴史、伝統、住環境・・・）

■生活と文化の面から見た都留市の目指すイメージ

人・もの・時間（とき）をつむぐ楽しいまち

- ・参加や体験を通して「人」を、施設やハードな「もの」を、歴史（過去）、現在、未来という「時間」を織物のように紡ぐことにより、皆が楽しく暮らせるまちを目指す

■実現するための方針

- つなぐ・連携（多様な方法で施設や人々の意識をつなぐ／例えば、車で行き来やすくする／歩いてまわれる道（散策道）をつくる／循環バスを走らせるなど）
- まち全体の核と地域の核づくり（城山、城下町、織物を1セットとしてまちの歴史的（過去）魅力のある核として形成する／桂川に橋をかけ、城山と、まち中をつなぐ／城山に市民も来訪者も憩える広場をつくる／まち中に残る古い町並みを保全し活用する／都留文科大学、総合運動公園をまちの新しい（未来）核として形成する／地域ごとに魅力ある核をつくる）
- 施設は面白くなければ人はこない（参加が大切：観光やイメージアップには民間の力を活用、楽しいイベントを、あまり活用されていない施設は市民が自由に参加空間に、体験が大切：リニアは乗ってみるとそのすごさがわかる、使い方や維持管理を考えた計画が大切：つくって終わりこれがよくない）
- まち中に自然をつくる（まちの中に小さな公園をつくる／家を建てる時、開発をするときなど、まちづくりのルールづくりを行い、少しずつでも緑を増やしていく）

■まちづくりについての意見・提案

- ・スポーツや運動（の場）等についての内容を議論する必要がある
- ・今ある施設の活用方法をもっと議論する必要がある
- ・サインや案内が不親切のため、各施設の場所がわかりづらい

(4) 子育てと福祉（教育、バリアフリー、病院・・・）

■子育てと福祉の面から見た都留市の目指すイメージ

地域のなかで子が育ち、共に成長できるまち

- ・週五日制の中で子供達が過ごす環境を…／少子高齢化を解消するために…
／お母さんの自立を助けるために…／子供達に将来残せるものは…／親子
の関係をさらに豊かなものに…

■実現するための方針

- 自然（山や川）の中で遊べる環境づくり（子供も大人も高齢者も遊べるように）
- 身近な場所で子供が遊べる環境づくり（キャッチボールなど自由に遊べる広場が身近な場所に）
- 交流の場となる「核」が必要（城山を都留の名所、観光などの拠点として活用／障害者の活動拠点づくり／地域のコミュニティセンターを有効活用／学校の空き教室を活用／これらをつなぐ交通の充実）
- まちの中に「隙間」をつくる（道ばたや縁側などの活用で、街の中で子供が「見える」ように）
- バリアフリーの推進（誰でも使いやすい街にする／バリアフリーからユニバーサルデザインへ）
- 公共施設の効率的な運営（住民の参加／開館時間の工夫／病院などの待ち時間への対応など）
- 地域の行事を大切に（伝統行事の継承とそれを活用した世代間の交流）
- 都留文科大学の学生との交流（都留の固有性としての大学を活用する）

■まちづくりについての意見・提案

- ・少子高齢化対策には女性が安心して産み、育てられる環境が必要である。
- ・子供が自由に遊べる場所として、遊休地を（公園などとして）有効活用したらどうか。
- ・育成会と都留文科大学学生をうまく組み合わせるとよい。育成会に、都留文科大学学生を有償ボランティアなどとして参加してもらったらどうか。
- ・都留文科大学学生に地域の行事に加わってもらえると、地域の事を知ってもらえることができる
- ・障害がある人と無い人の交流を活発にしたい。空き教室を有効活用したらどうか。
- ・バリアフリーについては、企画段階から当事者（障害のある人など）の意見を積極的に取り入れる事が必要
- ・女性が働く場や保育所など、公共の受け皿が少ない
- ・高齢者と子供をうまく交流させる仕組みが大切
- ・子育ての親をフォローする社会的な仕組みが必要
- ・高齢者に生きがいとなる講座、場づくりなどが大切
- ・子供は地域の宝。子育てが地域の発展につながると思う。一つの産業としても考えられるのではないか

(5) 産業（農業、商業、工業、観光・・・）

■産業の面から見た都留市の目指すイメージ

キラリと光る産業文化のまち

- ・歴史・風景・水・まちなみ・大学・食べ物など都留市の文化を創り出すすべての要素を磨いていく

■実現するための方針

- 水資源の利活用と保全（農業の活性化、観光にもつながる）
- 歴史・文化資源の活用（昔からある文化財の活用や、うぐいすホールでレベルの高いイベントの開催）
- 産業に関わる人材の育成と発掘（シルバー世代から若い世代までの人材バンクをつくり利用する）
- 都留のブランドを創造・育成・確立する（都留にしかない農産物や食べ物、菓子を生み出す）
- イメージアップのためのまちなみ整備（きれいなまちにするため、足元から改善・意識改革）
- 大学の開放と新駅・大学の融合（新駅から大学までを文化エリアとする）
- 中小企業の支援・活性化（中小企業を対象としたミニ工業団地をつくる）
- 都留インターのフルインター化（交通の流れをつくり、交流の場（人・マネーの流入）をつくる）
- 構造改革特区の活用（中央道沿いに、都留の特色ある産業エリアをつくる）

■まちづくりについての意見・提案

- ・小田原—道志—都留—横浜の循環コース構想や合併等、都留市だけでなく周辺地域も含めた広域的な視野が必要
- ・地元の商店街を活性化させることが必要。後継者不足の問題もある。都留にしかないもの（大型店では買えないもの）をつくりだすことが必要。反面、大型店が進出すれば便利になる
- ・ターゲットが観光客なのか地元住民なのか分からない。外部の大型店よりも、都留に昔からある商店を大切にしていけることが必要
- ・観光について議論し、しっかりとした理念とする必要がある。
- ・都留インターのフルIC化の実現が必要。しかし、フルIC化に伴う交通量の増加を考えると、モータープールの整備も必要
- ・既存の産業をベースに、新しい産業を民間活力（PFI）でつくっていくことが大切

1-3 地域別の検討結果と主要な意見

平成15年度の第8回から第10回のまちづくり研究会では、「禾生・盛里地域」「谷村・宝地域」「三吉・開地・東桂地域」の3つのグループに分かれ、地域別の課題・計画について討議をおこなった。

各グループでまとめた、地域別の意見や提案は次の通りである。

(1) 禾生・盛里地域

■禾生

- まちづくりのテーマ（「適正な開発を誘導する」ということが大きなテーマになる）
- 田野倉地区について（都市計画の位置づけがされておらず、また大月へ近いことから住宅開発、国道沿道には沿道型の商業施設が立地し、混沌とした土地利用となっている。今後、都市計画上の位置づけを検討していかなければならない地区／国道139号西側は開発されているが、国道の東側については富士急が通っており、それを境にして農地利用となっている。国道とつなぐ踏切、交差点が必要／焼却場の取り壊し、跡地利用が当面の課題である。）
- 良好な宅地整備について（四日市場周辺について、区画整理を進めるなどして、良好な宅地整備を行う必要がある）
- 駅周辺について（田野倉・禾生・赤坂駅など駅周辺の整備が遅れており、整備が望まれる／禾生駅で国道と駅の間が狭い→どう商業にしていくのか／駅前広場で準備運動・自転車・休憩／山に囲まれている駅の雰囲気を活かす／登山の玄関口のようなイメージ／田野倉駅については、ハイキング客の利用があるが、トイレを改善して欲しいという声がある）
- 観光客・地元の人も憩える場所を（田野倉に大月と交流できるスペースを／禾生地区に公園がない→憩える場所を／ちょっと休んだり水を飲んだりできる施設があるとよい／道を聞かれる→ルート整備と併せて）
- 国道20号へつながる幹線（バイパス一本だけでなく大月につなげる幹線道路を整備する）
- バイパスと既存幹線をつなぐルート確保（バイパス～禾生駅までつなぐ方法）

■盛里

- まちづくりのテーマ（特に現状で困ったという課題も見受けられない。山林の自然や沿道の農地なども含めて「保全」というのが、盛里のテーマだろう）
- 河川・水資源について（川の湧水があるなど、水資源の面では貧しい：井戸などで対応している）
- 道路整備、バイパスからのつながり（林道が生活道路になっている→通りやすいように／国道バイパスから盛里へつなぐ道路があると交通量が減らせる）

(2) 谷村・宝地域

■谷村

- 遊歩道の整備と道のストーリー創り**（寺めぐりの散策路を設置しゆっくり歩いて谷村の史跡巡りできるルートをつくる／家中川に沿って、家並みや庭の草木花を楽しめる散策路の整備／河の整備／休めるところ／谷村駅から城山に通じる道路の歩道整備／市のシンボルである城山へ自然と足の向くような環境づくり／市役所裏付近から城山へ橋を架ける／城山頂上に天守閣をつくる／城山周辺の地形や環境を崩さない開発／市役所から城山へ入る吊り橋／登り口と降り口の駐車場／頂上付近に誰でも楽しめるオープンスペースの多目的広場を／谷村駅～城山温泉の吊り橋～城山に登れる散策路の設置と整備）
- まちのなかに憩いの場所を**（道草できる健康の道、手作りベンチ、花の並木、トイレ、水飲み場など／道に彩りを、自転車・・・効率、人・・・心のゆとり、まちのあちこちに井戸を掘り散策のポイントとする／まちの縁側づくり、世間話、情報交換、遊びの空間／家中川を面白水車で彩る、水力でモニュメントを動かす／田原の滝）
- 既存施設を有効に活用したまちづくり**（都留市駅近くの東ハト跡地の活用／「まちの駅」、都留の魅力、まち案内、新鮮な農産物直売、俳句展示／ミュージアム都留、市役所、文化会館、ふるさと会館等公共施設を開放して誰でも気楽に利用できるように／谷一小の空き教室をミュージアム都留と連携させる）
- 人が集う、人とふれあえるまち**（空き店舗の学生による活用／若者のステージをまちなかに創る、大学生、青空コンサート、芸術展示、研究発表／人力車を導入する／市街地エリア内で朝市の開催／各商店をぶらぶら見学するには車の通過を減らすことが先決／法能へまわすトンネルが必要／商店街地区の歩道の整備／スロータウン、ゆっくり歩き集い会うまち／駐車場の共同利用／都留市駅～谷村町駅区間割引制度／商業者とのタイアップ／空き地の有効利用／谷村第一小学校の空き教室の利用）
- 道路整備**（県外者に限らず、本町通りその他の道を通すだけの車を少なくするためICから出た車をバイパスの方へ通すため谷村トンネル（構想）を実現させる）
- 文大を中心とする新都市**（谷村、文大周辺、元気なまち／田原を中心としたまちづくり、やはり道路網の整備とともに装飾道路も大学周辺には必要／学園と文化の発信するまち）
- 散策路**（裏山をしっかり整備して散策路をつくる）
- 駐車場・道の駅**（まちの裏山に穴を空けて駐車場をつくる／道の駅をつくって、その周辺の開発をする）
- 商業とまちの活気**（活気のあるまち、商店街／谷村、本町「たまり」／高尾町の道路改革は難しく見える以前のまちを取り戻すにはどうするか）
- 道路整備**（国道としては道が狭く、歩道も狭い／側道をしっかり整備する／側道から城山、城山南側へのアクセス／開地・道志からの道を考える）

<次ページへ続く>

- 城山の活用**（簡素な歩道をつくり山全体に桜を植え市民レクリエーションの場とすることとその他の花木を植える／城山を如何にして昔の桜の名所として見直すか、難しければ桜でも植えては／城山を楽しく登れる山に／駐車場、その周回遊歩道の整備を進めて欲しい）
- 歴史の見えるまち**（寺まち通りの整備／歴史的景観の保存）
- 人にやさしいまち**（まちなかはバリアフリーに／ミニ博物館、道路マップ／寺、博物館、美術館／まると博物館を利用しやすいかたちにする）
- 道と拠点づくり**（ルート沿いに拠点をつくる）
- 火葬場**（市営の葬儀場を整備する／休憩室を増やして欲しい）

■宝

- アクセス・連携強化**（東桂への道路アクセスを考える／初狩に抜ける道路を充実させる／道路整備を早く進めて欲しい／県道の改修：途中で細くなってしまふ／焼却場の道は専用ルートが必要：計画への位置づけを／うなぎの寝床からの脱却・開放）
- 歩道・散策**（寺巡りの道をつくりたい、長生寺（羽根子）～用津院～桂林寺～広教寺～福源院／国道・県道・市道について歩道を広く取ることが大切／市民の健康増進をはかるためハイキング道路を整備する）
- 三ツ峠・登山基地**（ふれあいの里を拠点とした山めぐり、ことに三ツ峠への道をつくる／三ツ峠登山道の整備／宝から登山者に山の良さを見て欲しい、秋の紅葉の美しさ）
- 花をいっぱい**に（桜・あじさい等の花木を植える／道路にスズランを植える）
- いきものふれあいの里の充実・活用**（生活地区、農業体験施設ふれあいの里の充実／いきものふれあい／グリーンロッジ等施設の有効活用／宝の山ふれあいの里のPRと周辺地区の整備）
- 新しい人・まち**（宝：新しい人たち）

(3) 三吉・開地・東桂地域

■三吉

- まちづくりのテーマ**（これから発展する新しい市街地／パイパスを軸とした便利、新しい商業、安全で安心できるまちづくり、月待ちの湯やその周辺の活用）
- 利便性のある住宅地**（環境の良い利便性がある住宅地）
- 道路（パイパス）を軸とした整備**（道志からの道とパイパスのつながりの道が悪い／住吉球場の横の道と法能八幡線との連絡道路を整備／県道戸沢線の虫食い道路（歩道）の解消／住吉球場の近くにモータープールの設置）
- 谷村と法能の連続**（谷村と法能をつなぐトンネル構想の復活を）
- 特徴ある商業**（新しい店舗や飲食店など特徴ある商業があるので、それを活用する）

- 河川、緑豊かな公園（河川を利用した緑、自然豊かな公園のあるまち）
- 月待ちの湯を拠点として活用（遊休地を利用したふれあい農場で農業体験／月待ちの湯にちなんだ特産品を考案し、地域をあげてPRし、購買力を上げて活性化を図る／月待ちの湯から地域の発展を考える／道路整備、PRが大切）

■開地

- まちづくりのテーマ（山間の自然の活用／河川を軸とした学びの場／都留文科大学とのつながり／道志とのつながり）
- 山間の自然（観光）拠点（現在の自然を残した山間の里／道志との連携によって山間の観光地化を考える）
- 都留文科大学・学び（学びのまちづくり、都留文科大学を中心とした活性化策を考える／ふれあいまちづくり、コミュニティクラブ）
- 子供が安心して遊べる（子供が安心して遊べるまち／付属小学校への歩道整備、通学路）
- 河川の活用（菅野川河川敷を利用し、公園や遊歩道を設置／自然と共生のまちづくり、河川利用／親水公園、ウォーキング道路、サイクリングロード、通学路／花の公園によって観光開発）
- 道路の安全対策（谷村からトンネルを出て信号待ち→道路が傾斜しており積雪時に危険／直線化→橋／安全対策）
- 水質向上（親水整備にあたり河川の水質向上を→合併浄化槽／古い単独浄化槽の対策を）

■東桂

- まちづくりのテーマ（都留の東の核、新しい宅地開発が見られる、人口が多い／人が集まる「地域の縁側」づくり／骨格道路と地域の道づくり）
- 東の核（谷村、田野倉周辺と並ぶ核づくり、子供の数も多い）
- 人が集まれる核、休める場所、地域の縁側づくり（近所同士が集まって会話のできるまち／ゆったりと楽しく買い物のできるまち／こんなすばらしい公園があると他の人に紹介できる公園づくり／老若男女が日々の生活の中でふれあえる場づくり／支え合える場づくり、システムも含めて）
- 観光拠点・物産（ハード面と共にソフト面も考え、東桂特産の水菜、わさび等の販売所を道路沿いにつくる／観光施設を増やし、観光客を集める方法を考える）
- おいしがねポケットパーク（十日市場の「おいしがね」祠を地元で守りたい→ポケットパークに）
- 自然（自然の豊かさの中で、生活していながら自然との共生に対する思いが少ないので、周囲の自然を保全しつつ、親しめる環境整備をする。このとき子供を含めた住民主導にする）
- 蒼竜峡の保全（田原の滝～蒼竜峡～おなん淵まで保全エリアに）
- 骨格道路（フルICと国道バイパスの着工／国道139号と宝から国道20号へバイパス整備）

<次ページへ続く>

- 地域間、地域内の道路づくり**（各地域との交流の架け橋となる道路網を計画する／中央道の北側地域へのアクセス／道路整備により川が暗渠となり、水音のするまちから遠ざかるが、できる限り水音を残しつつ、住宅地内の道路整備をする／東桂の道がどこにつながるか、わかりやすい道路整備をする／地域の歴史、史跡を明示し、散策する道路マップをつくり、またその連絡道路を整備する／バイパスと側道をつなぐ道路軸を）
- 競技場周りの交通**（うぐいすホール・陸上競技場へのアクセスルート）
- 舗装の充実**（山中の道を舗装して欲しい）



第2回まちづくり研究会



第5回まちづくり研究会



第7回まちづくり研究会



第10回まちづくり研究会

1-4 まちづくり研究会委員名簿

※順不同、敬称略

所属等	氏名		備考
	平成14年度	平成15年度	
一般公募	応募者	小宮正廣	
	応募者	清水紀行	
	応募者	清水絹代	
	応募者	渡辺 譲	
	応募者	馬崎祥太	
	応募者	芳賀章吾	
	応募者	佐藤 保	
	応募者	志村裕一	
	応募者	佐藤和徳	
	応募者	杉本光男	
団体代表等	都留市商工会	田中幸雄	花田敬一
	都留市農業委員会	清水政雄	
	都留市経営者連絡協議会	田中一利	
	美富士農業協同組合	重森秀樹	
	都留機械金属工業協同組合	三枝秀雄	
	都留飲食店組合	安富和男	
	都留市PTA連合会	小佐野廣光	
	都留市体育協会	伊藤 敏	
	都留市文化協会	松川 始	沢田洋一
	都留市小中学校校長会	刑部国男	
	都留市社会福祉協議会	矢嶋昭治	
	都留市老人クラブ連合会	天野千代子	
	都留市保育所連合会	川茂岱定	安藤圭子
	都留市身体障害者福祉会	佐藤秀男	
	都留交通安全協会都留市連合支部	天野弘光	
	富士急行株式会社	上原 厚	
	(社) 山梨県建築士会都留支部	山口清一	
	(社) 山梨県測量設計業協会	藤本紘一	
	都留市女性団体連絡協議会	板倉圭子	—
	(社) 都留青年会議所	金巻 裕	
都留市消防団	草薙征一	伊藤雄一	
地域住民代表	上谷地区連合自治会	花田敬一	樋口博昭
	中谷地区連合自治会	依田康和	田中萬朗
	下谷地区連合自治会	小俣京二	花田 武
	三吉地区連合自治会	小池武文	三井正清
	開地地区連合自治会	曾根利憲	小俣 勉
	東桂地区連合自治会	清水王也	山口金義
	宝地区連合自治会	園田寅次	
	禾生地区連合自治会	上野敦美	都倉史朗
	盛里地区連合自治会	前田久吉	臼井 久